

**2015年度 第2四半期決算説明会
主な質疑応答**

Q1: 上期全体では対計画を上回ったものの、2Qではやや未達となったとのことだが、下期の見通しは？

A1: 通期目標に対しては今のところ着実に進捗している。但し、偏光板の在庫調整等の影響により売上が伸びなかったフラットパネルディスプレイ材料事業については、今後も予断を許さない状況。一方で、フォトイメージング事業、メディカルシステム事業、グラフィックシステム事業、電子材料事業は着実に利益を生み出す体質になっている。半期別では、下期により大きく利益が出る傾向があり、通年での目標は達成できると見ている。

Q2: ドキュメント事業について中国を中心としたマクロ悪化による影響は？

A2: 中国での景気減速については、low-end品を中心とした代理店販売に影響が見られる。しかし、付加価値の高い製品を主に扱う直販においては、コストダウンにつながる施策としてソリューションサービスがむしろ堅調に推移している。

Q3: イメージングソリューションの2Qでの営業利益率が前年度の1.5%から8.9%に大幅アップした要因は？

A3: チェキが大変好調である。また、チェキへの注目が高いが、付加価値プリントにも注力している。プリント需要を積極的に喚起し、取り込んでいく取組みが世の中に受け入れられ始めている。また、デジタルカメラは高級機へのシフトが進み、ラインアップ強化の進む交換用レンズと共に、収益性の底上げに寄与している。

Q4: チェキの2Q販売台数は？また、チェキが特に欧米で好調となった背景は？

A4: チェキの販売台数は2Qで115万台、上期では218万台となり、上方修正した通期目標500万台に向けて順調に推移。チェキが欧米で好調だったのは、同地域ではここ2年くらいで本格的に販売開始しており、まだ立ち上がりの時期の勢いが継続していることに加え、デジタルとは異なる写真の楽しみ方を訴求するというマーケティング戦略が奏功しているため。

以上